





## 各試験基準の比較表

認証マーク				
<b>認証</b>	SP スウェーデン技術研究所	KS 韓国国家基準	JIS 日本工業規格	UL アメリカ保険業者安全試験所
<b>内容</b>	スウェーデンの政府によって運営されている試験研究所。(SP Technical Reserch Institute of Sweden)の略称。業務内容は広範囲に及ぶが、技術的調査やその標準化、規格化。また品質の保証・認証を行っている。ヨーロッパでは非常に一般的な工業規格。	韓国産業規格 (Korean Industrial Standards)の略称。産業標準化法に基づいて制定される工業製品の標準規格であり、この規格は韓国製の工業製品の品質向上、維持などを目的に制定されている。	日本工業規格、(Japanese Industrial Standards)の略称。工業標準化法に基づき、日本工業標準調査会の管轄を受けて、主務大臣が制定する工業標準であり、日本の国家標準の一つである。	アメリカ合衆国に本拠を構える非営利機関、(Underwriters Laboratories Inc.)の略称。安全性に関する標準化を目的とした製品安全規格を策定し、同時に評価方法を設定、実際の評価試験を実施。
<b>標準加熱試験方法：</b> 金庫を炉内に入れ、定める各標準温度曲線に従い規定時間加熱。	<b>炉内温度</b>			
	●耐火60分：1,010度 ●耐火90分：1,010度 ●耐火120分：1,010度	●耐火60分：927度 ●耐火120分：1,010度	●耐火60分：927度 ●耐火120分：1,010度	●耐火60分：927度 ●耐火120分：1,010度
	<b>合格基準</b>			
	●庫内温度150度以下	●庫内温度177度以下	●庫内温度177度以下	●庫内温度177度以下
<b>急加熱・衝撃落下併用試験：</b> 高温に上がった炉内に金庫を入れ加熱し、一定の高さから金庫を落下。さらに逆さにして定める各標準温度曲線に従い、規定時間加熱。	<b>落下前の炉内温度と加熱時間</b>			
	検査無し	1,090度まで加熱した炉に耐火金庫を入れ加熱。 ●耐火60分：30分間加熱。 ●耐火120分：30分間加熱。さらに追加で15分加熱。	1,090度まで加熱した炉に耐火金庫を入れ加熱。 ●耐火60分：30分間加熱。 ●耐火120分：30分間加熱。さらに追加で15分加熱。	急加熱と衝撃落下の各検査に分けて実施。
	<b>落下高度と落下方法</b>			
	検査無し	炉内より耐火金庫を取り出し4分以内に、9.1mの高さからレンガの敷かれたコンクリートの床に落下。	炉内より耐火金庫を取り出し4分以内に、9.1mの高さからレンガの敷かれたコンクリートの床に落下。	急加熱と衝撃落下の各検査に分けて実施。
	<b>落下後の再焼却と加熱時間</b>			
	検査無し	落下試験後、耐火金庫を上下逆さまにして再び炉内に入れ、標準温度曲線に沿って再加熱。その後自然冷却。 ●耐火60分：843度で30分間再加熱。 ●耐火120分：893度で45分間再加熱。	落下試験後、耐火金庫を上下逆さまにして再び炉内に入れ、標準温度曲線に沿って再加熱。その後自然冷却。 ●耐火60分：843度で30分間再加熱。 ●耐火120分：893度で45分間再加熱。	急加熱と衝撃落下の各検査に分けて実施。
	<b>合格基準</b>			
検査無し	●破裂が起こらないこと ●施錠が維持されている事 ●庫内の新聞紙が判読できる事	●破裂が起こらないこと ●施錠が維持されている事 ●庫内の新聞紙が判読できる事	急加熱と衝撃落下の各検査に分けて実施。	
<b>衝撃落下試験：</b> 炉内に金庫を入れ加熱した後、一定の高さから金庫を落下。さらに逆さにして定める標準温度曲線に従い、規定時間加熱。	<b>落下前の炉内温度と加熱時間</b>			
	検査無し	併用検査にて実施	併用検査にて実施	加熱した炉に耐火金庫を入れ843度まで加熱。 ●843度にて30分間加熱。
	<b>落下高度と落下方法</b>			
	検査無し	併用検査にて実施	併用検査にて実施	炉内より耐火金庫を取り出し2分以内に、9.1mの高さからレンガの敷かれたコンクリートの床に落下。
	<b>落下後の再焼却と加熱時間</b>			
	検査無し	併用検査にて実施	併用検査にて実施	落下試験後、耐火金庫を上下逆さまにして再び炉内に入れ、標準温度曲線に沿って再加熱。 ●843度にて30分間加熱。
<b>合格基準</b>				
検査無し	併用検査にて実施	併用検査にて実施	●破裂が起こらないこと ●施錠が維持されている事 ●庫内温度177度以下	
<b>急加熱試験(爆発試験)：</b> 高温に上がった炉内に金庫を入れ加熱。	<b>炉内温度</b>			
	検査無し	併用検査にて実施	併用検査にて実施	1,090度まで加熱した炉に耐火金庫を入れ20分間加熱。 その後炉内にて自然冷却。
	<b>合格基準</b>			
検査無し	併用検査にて実施済	併用検査にて実施済	●破裂が起こらないこと	